

2019年9月期 第3四半期 決算補足資料

2019年8月13日 (東証第1部 6189)

株式会社グローバルキッズCOMPANY



将来見通し等に関する注意事項

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。

かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

当社が事業環境の説明を行う上で、参考となると考える情報を掲載しております。掲載データについては、調査方法や調査時期により結果が異なる可能性があります。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。



もくじ

2019年9月期 第3四半期 決算の概要	.3p
2019年9月期 業績見通し	.14p
TOPIC	.18p
ESGへの取組み	.22p

2019年9月期 第3四半期 決算の概要

1. 計画どおり保育所22施設を開設したほか、学童1施設、児童発達支援1施設を開設

- 4月に認可保育所17施設・企業主導型4施設・事業所内1施設、学童クラブ1施設を新規開設
- 6月に当社グループ初となる児童発達支援事業1施設を新規開設

2. 2ケタ増収を達成

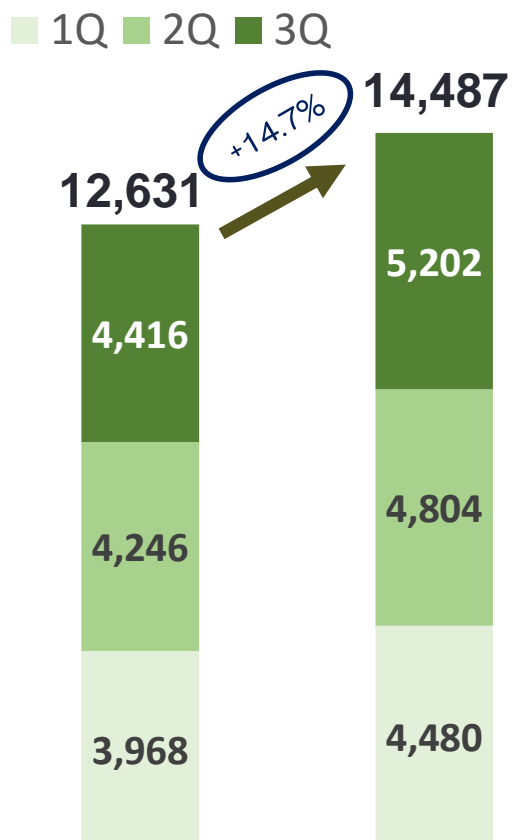
- 売上高 14,487百万円（前年同期比 +1,856百万円 +14.7%）
- 運営施設数の順調な増加を主因に在籍園児数が拡大したことが主な増加要因
- 東京都認可保育所は概ね堅調に推移しているものの、認証・企業主導型保育所の入所率が下振れているほか、一部自治体の助成金減額により売上高の進捗は想定を若干下回る

3. 経常利益は小幅増益

- 営業利益 189百万円（前年同期比 △203百万円 △51.7%）
 - 認証・企業主導型の入所率が想定を下回った一方、次年度を見据えた保育士の採用を概ね計画どおり進めたことで人件費関連、採用費の負担が増加し営業減益
- 経常利益 1,743百万円（前年同期比 +85百万円 +5.1%）
 - 設備投資に係る開設補助金の増加による営業外収益の改善が寄与

2019年9月期 第3四半期業績概要

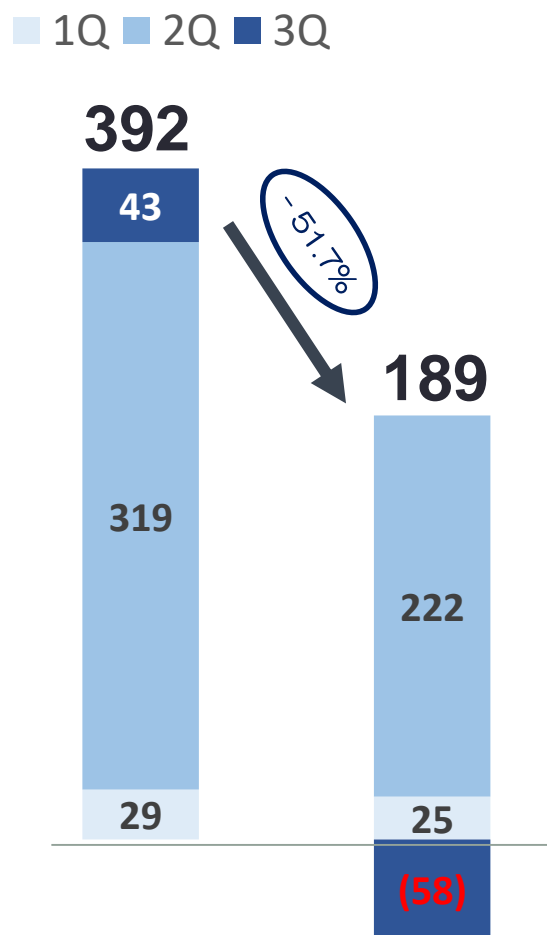
売上高



2018/9期

2019/9期

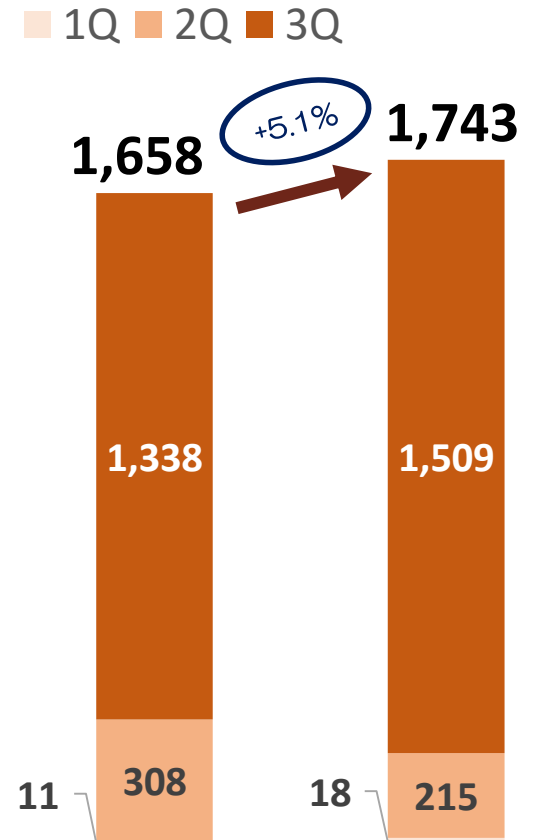
営業利益



2018/9期

2019/9期

経常利益



2018/9期

2019/9期

単位：百万円

2019年9月期 第3四半期業績

	2018年9月期 3Q累計		2019年9月期 3Q累計		
	(百万円)	構成比	(百万円)	構成比	前年比
売上高	12,631	100.0%	14,487	100.0%	+14.7%
売上原価	10,779	85.3%	12,558	86.7%	+16.5%
売上総利益	1,852	14.7%	1,929	13.3%	+4.2%
販売費及び 一般管理費	1,459	11.6%	1,739	12.0%	+19.2%
営業利益	392	3.1%	189	1.3%	△51.7%
営業外収益	1,675	—	2,015	—	+20.3%
営業外費用	409	—	461	—	+12.7%
経常利益	1,658	13.1%	1,743	12.0%	+5.1%
特別損益	△116	—	△16	—	—
税前四半期 純利益	1,541	12.2%	1,727	11.9%	+12.1%
法人税等	661	—	634	—	△4.1%
純利益	879	7.0%	1,092	7.5%	+24.2%

[売上高]

- ◆ 園児数増加と公定価格改定により前年同期比18.6億円増加
- ◆ 前期に一過性の売上を計上した反動によるマイナス要因があるものの、処遇改善で1.3億円、施設家賃補助・社宅補助で1.5億円増加

[売上原価]

- ◆ 保育士採用に伴い人件費関連（社宅家賃等）や採用費（紹介料）などの増加により売上原価率は1.4ポイント上昇

[販管費]

- ◆ 採用費（広告費等）、職員離職防止策、広報費の増加等により販管費率は上昇

[営業外収支]

- ◆ 開設補助金が3.4億円増加し、営業外収支が改善

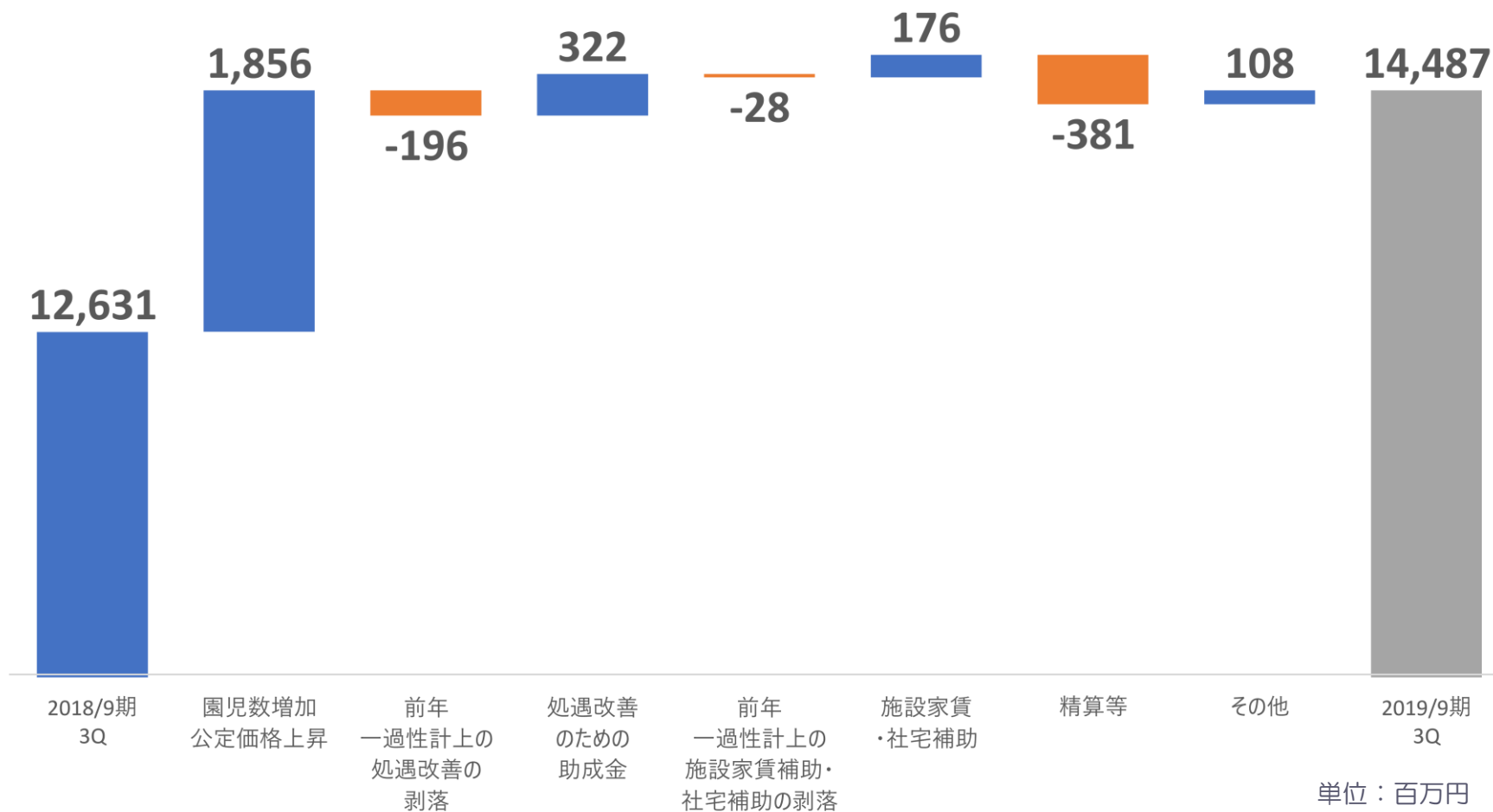
[特別損益]

- ◆ 保育システム入替に伴う損失が発生

2019年9月期 第3四半期 売上高前期比増減要因

売上高

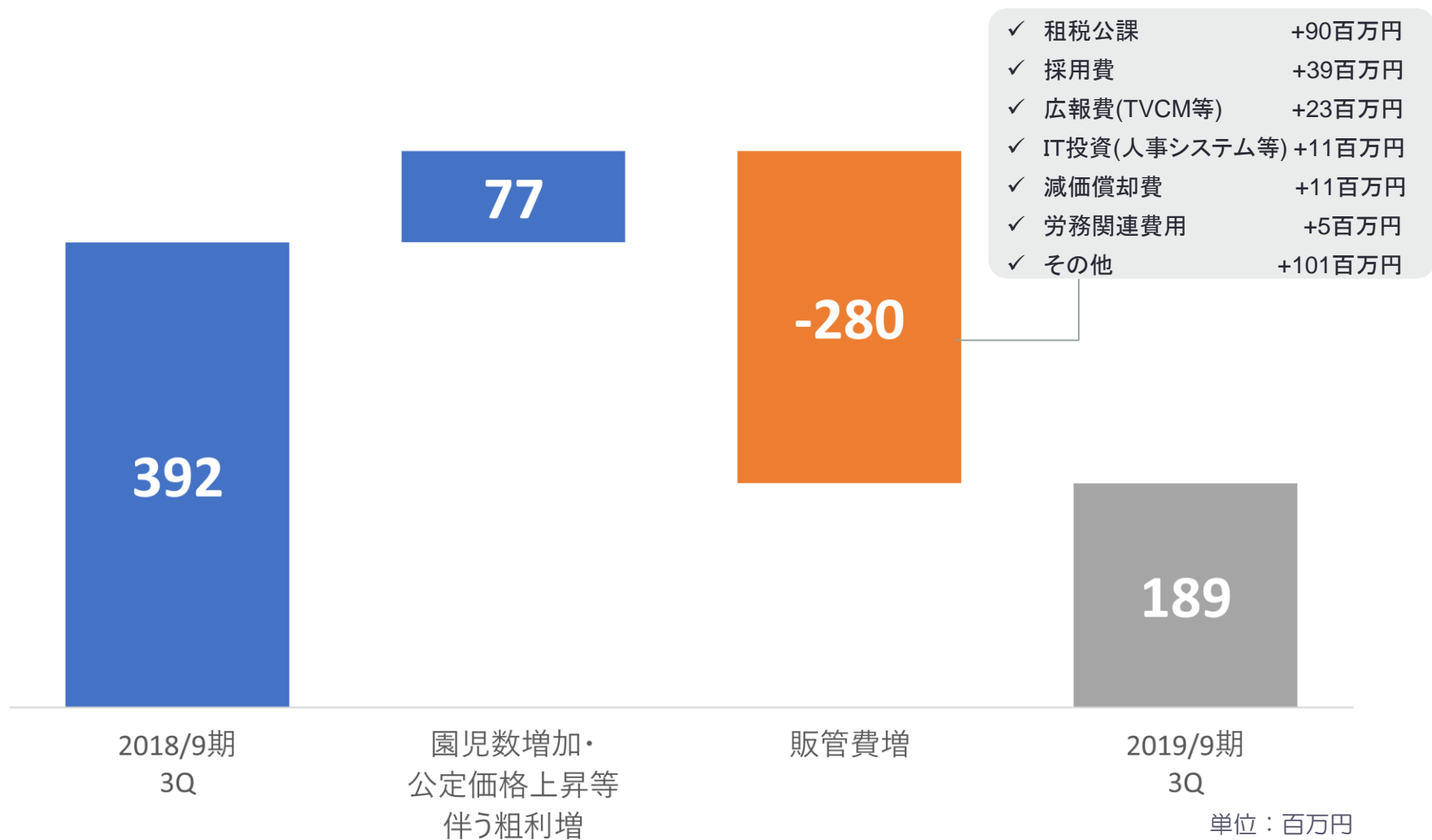
✓ 園児数増加により14.7%増



2019年9月期 第3四半期 営業利益前期比増減要因

営業利益

✓ 想定を下回る入所率により費用増を補えず営業減益



2019年9月期 第3四半期 経常利益前期比増減要因

経常利益

✓ 設備投資に係る開設補助金の増加に伴い5.1%増

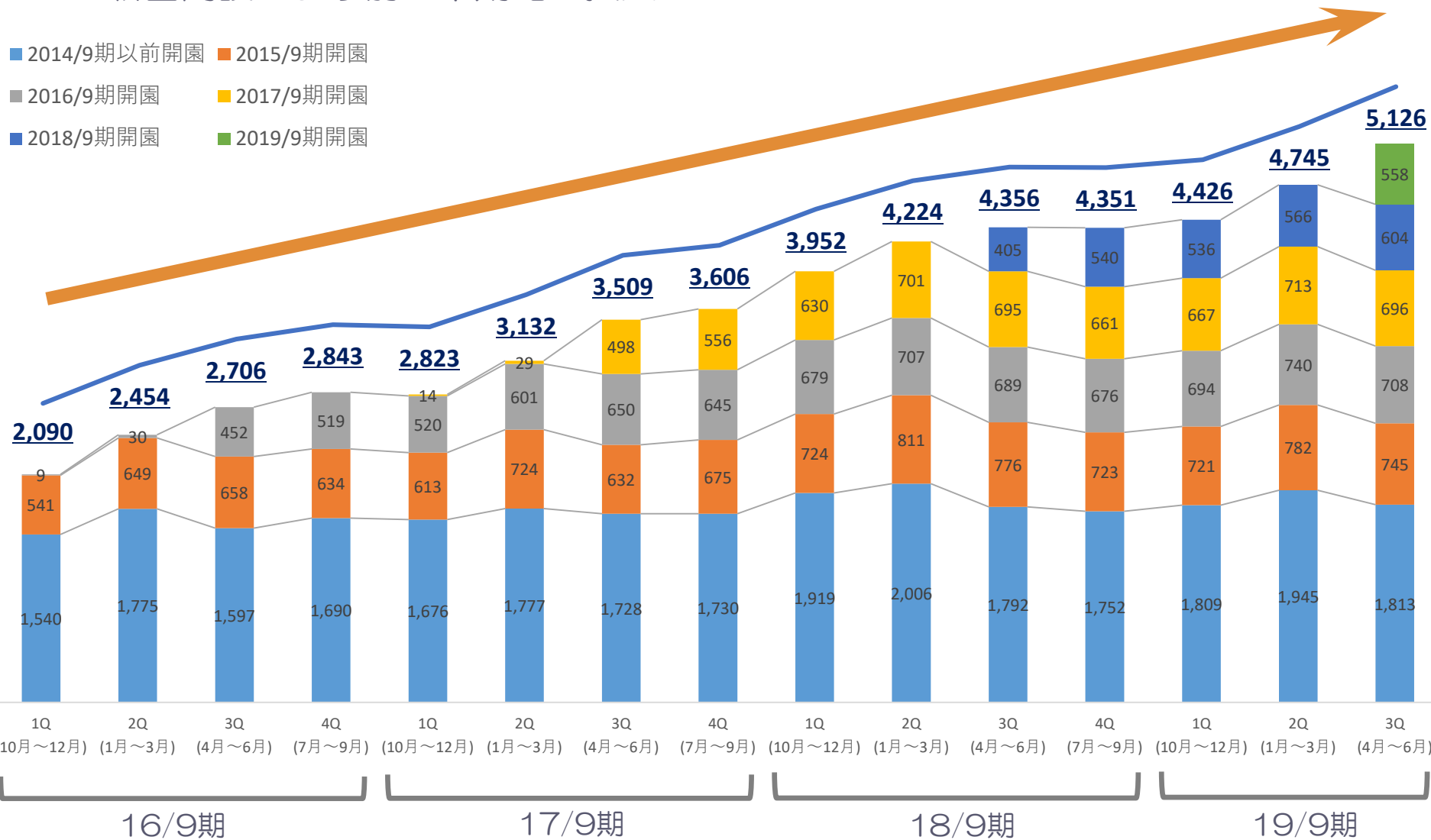


単位：百万円

開設期別 四半期毎売上高の推移（保育事業）

■ 新園開設により前四半期比で拡大

- 2014/9期以前開園
- 2015/9期開園
- 2016/9期開園
- 2017/9期開園
- 2018/9期開園
- 2019/9期開園



注：集計対象は保育事業、コンサル・給食受託事業は除く

単位：百万円

貸借対照表

(単位:百万円)

	2018.9末	2019.6末	
			増減額
流動資産	3,264	3,588	324
現預金	1,301	1,649	348
固定資産	12,427	14,730	2,303
有形固定資産	9,711	11,866	2,155
資産計	15,691	18,318	2,627
流動負債	3,095	2,878	△217
固定負債	6,017	7,743	1,725
負債計	9,113	10,621	1,508
純資産	6,577	7,697	1,119
負債・純資産計	15,691	18,318	2,627
有利子負債	5,133	6,197	1,063
自己資本比率	41.8%	41.9%	—

[流動資産]

◆ 現預金等の増加により3.2億円増加

[固定資産]

◆ 4月の新規開設に伴い建物および構築物の増加などで有形固定資産が21.5億円増加

[負債]

◆ 借入金の増加により、負債が増加

[有利子負債]

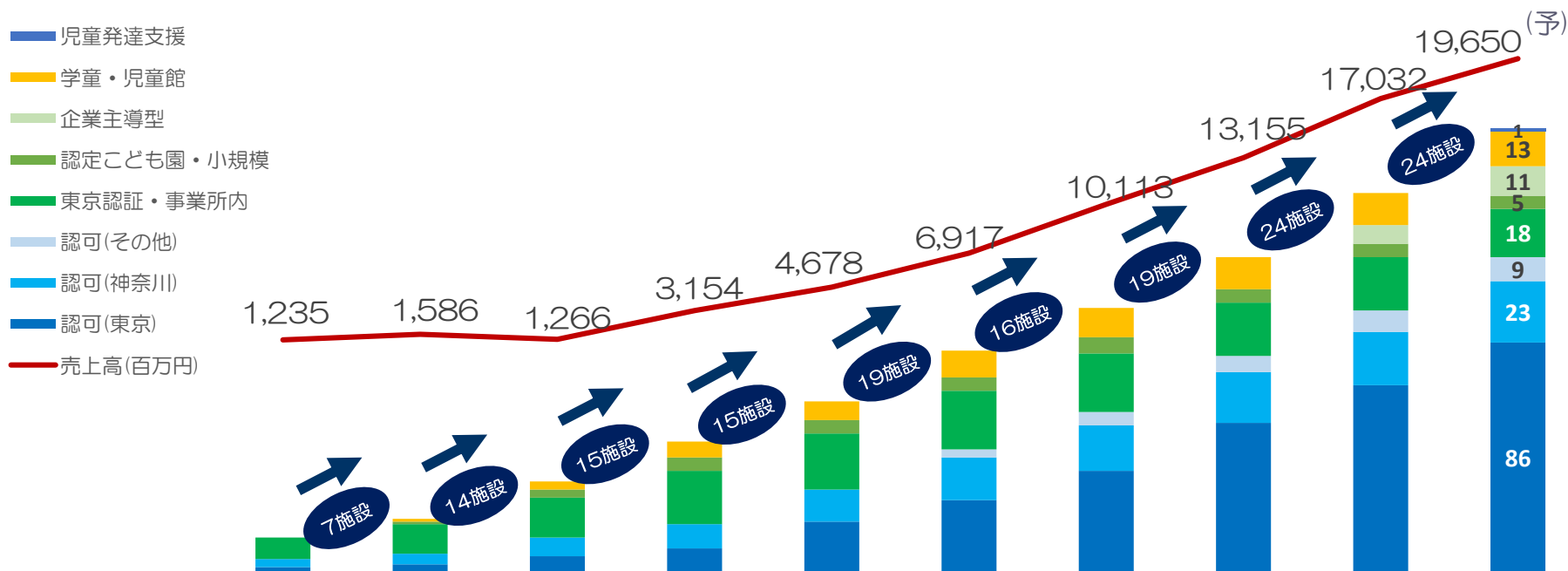
◆ 新園設備投資のための借入金増加で有利子負債が増加

[自己資本比率]

◆ 利益剰余金増加に伴い自己資本比率がやや上昇

運営施設数の推移

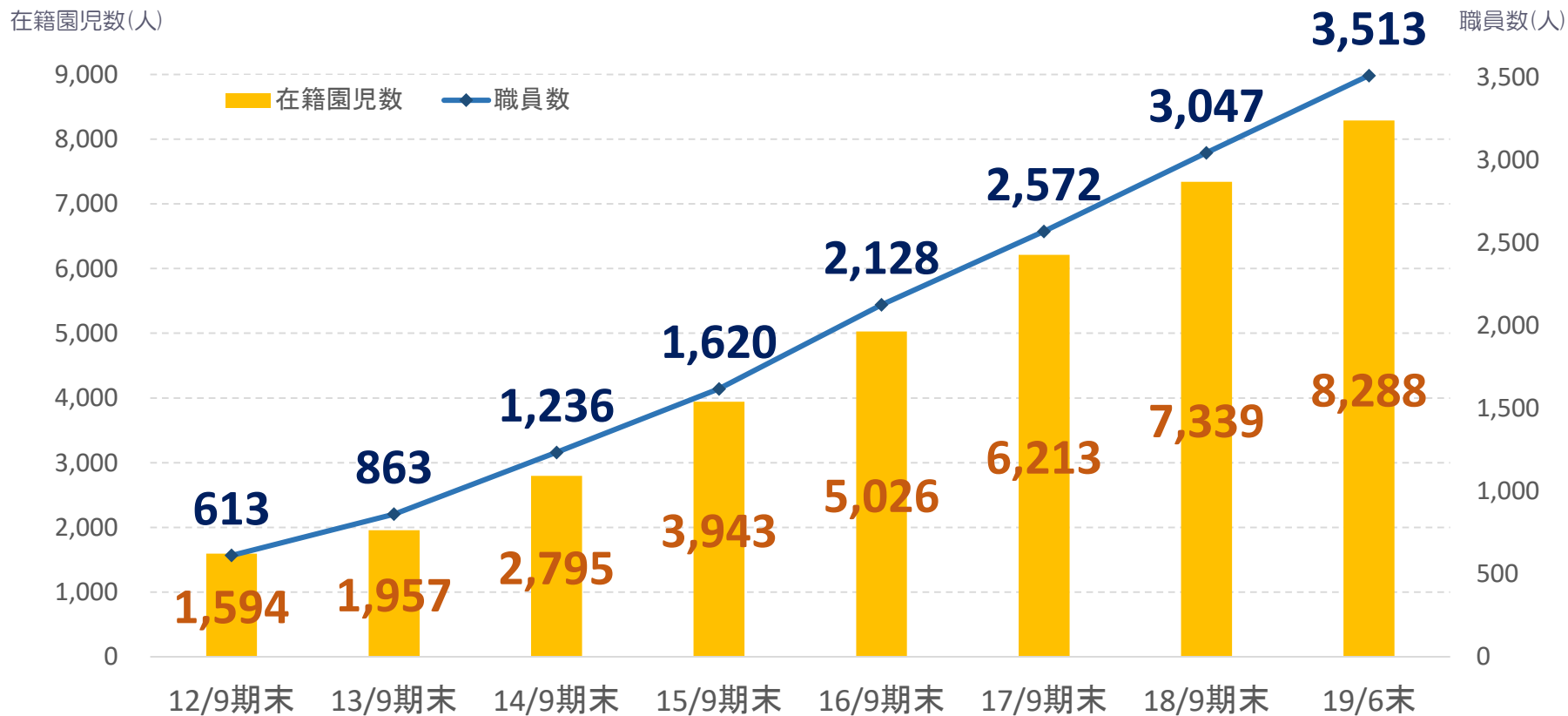
■ 2019年4月に23施設開園 運営施設数は合計166施設



	2011/3期	2012/3期	2012/9期	2013/9期	2014/9期	2015/9期	2016/9期	2017/9期	2018/9期	2019/6
児童発達支援	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
学童・児童館	-	1	3	6	7	10	11	12	12	13
企業主導型	-	-	-	-	-	-	-	-	7	11
認定こども園・小規模	-	1	3	5	5	5	6	5	5	5
東京都認証・事業所内	8	11	15	20	20	21	22	20	20	18
認可(千葉県)	-	-	-	-	-	2	3	3	3	3
認可(埼玉県)	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
認可(大阪市)	-	-	-	-	-	1	2	3	4	5
認可(神奈川県)	3	4	7	9	12	16	17	19	20	23
認可(東京都)	2	3	6	9	20	28	38	56	70	86
合計	13	20	34	49	64	83	99	118	142	166

注：2015年9月期以前の売上高については(株)グローバルキッズ連結数値となります

在籍園児数と職員数の推移



在籍園児数：学童クラブ・児童館に在籍する児童数は含まず
職員数：本部職員・パート職員等を含む

2019年9月期 業績見通し

2019年9月期連結業績修正の概要

■ 一時的な先行投資負担が減収を補えず、前回見通しに対し減益を見込む

- ・ 入所率下振れにより前回見通しに対して売上高の減収を見込む
- ・ 一方で、採用に伴う先行投資負担などで、前回見通しに対して営業利益も減益を見込む

	2018年 9月期 実績	2019年9月期業績見通し					
		前回見通し		修正見通し			
		(百万円)	構成比	(百万円)	構成比	前回 見通し比	前期 実績比
売上高	17,032	20,000	100.0%	19,650	100.0%	△1.8%	+15.4%
営業利益	337	340	1.7%	115	0.6%	△66.2%	△66.0%
経常利益	1,917	1,930	9.7%	1,750	8.9%	△9.3%	△8.7%
当期純利益	559	1,250	6.3%	1,090	5.5%	△12.8%	+94.9%

2019年9月期 主な修正要因

[売上高]

- ◆ 東京認可の入所率は概ね堅調なもの、認証・企業主導型の入所率下振れや一部自治体の助成金減額により想定を下回る

[営業利益・経常利益]

- ◆ 次年度の園児受入れを見据え、採用は概ね計画どおりとしたため、人件費関連と採用費が一時的に先行発生したこと、売上高低下に伴い固定費（施設家賃など）割合などが高止まりしたことで利益は想定を下回る

下方修正要因

対応と目途

売上要因

✓ 認証・企業主導型施設の入所率が想定を下回る

✓ **入所率の向上**
・ 専門プロジェクトによる申込獲得PRの実施
・ 入園プロセスの本社集中管理を通じた受入迅速化
・ 職員の適正配置による受入れ園児枠の拡大
→ **2020年4月に入所率向上を目指す**

✓ 一部自治体による助成金の減額

✓ **職員の最適配置**
・ 施設横断的な職員配置の精緻化及び適正化（職員配置補助金の増額と人件費最適化）
・ シフト最適化とパートの積極活用（人件費最適化）
※保育の質と助成金制度を考慮して実施
→ **4Qより段階実施、2020年4月～全社最適化**

費用要因

✓ 園児数増加を見越した職員の先行採用
※人件費及び採用費の増加

✓ **職員の定着率向上**
→ **今後3年間で退職率を大幅に改善**

→ 2020年9月期の業績向上を図る、中期経営計画も策定中(11月公表予定)
・ 事業基盤の強化のための積極的な成長投資は手を緩めずに実行

2019年9月期新規施設 ～計画どおり全施設開設済み～

所在地	施設名	定員数	施設形態
東京都 千代田区	グローバルキッズ経済産業省保育室	19名	事業所内
港区	グローバルキッズアークヒルズ園	26名	企業主導型
文京区	グローバルキッズ茗荷谷園、大塚四丁目園	63/70名	認可
墨田区	グローバルキッズ八広園	70名	認可
目黒区	グローバルキッズ大岡山園、めばえ保育ルーム都立大学	60/30名	認可/企業主導型
大田区	グローバルキッズ武蔵新田園、西六郷園、上池台園	69/60/60名	認可
中野区	グローバルキッズ沼袋園	70名	認可
世田谷区	めばえ保育ルーム上野毛、下北沢	29/19名	企業主導型
杉並区	グローバルキッズ浜田山園	67名	認可
北区	グローバルキッズ志茂保育園	35名	認可
荒川区	グローバルキッズ町屋保育園	60名	認可
練馬区	グローバルキッズ桜台保育園	63名	認可
江戸川区	グローバルキッズ宇喜田町園	70名	認可
千代田区	グローバルキッズ飯田橋第二学童クラブ	—	学童クラブ
江東区	グローバルキッズAct清澄白河	—	児童発達支援
神奈川県 横浜市	グローバルキッズ美しが丘保育園、磯子保育園、上大岡園	63/73/69名	認可
大阪府 大阪市	グローバルキッズ上新庄園	80名	認可

保育所 : 22施設
 学童 : 1施設
 児童発達支援 : 1施設
1,225名

TOPIC

引き続き、事業基盤の拡大期間として位置付け、より「強い会社」を目指す

規模の
拡大

×

収益性の
向上

✓ 新園開設の継続

- 2019年4月に新規開設23施設、認証から認可への移行3施設を実施

✓ 人材採用の強化

- 積極開園を支える年間1,100名規模の人材採用を実施
- SNS等を活用した戦略的な採用施策を実行し他事業者と差別化

✓ 職員の定着率の向上

- 職員の中長期的な就労を推進する新たな人事制度の導入（2019年4月）
- 働き方改革、全社および施設ごとのコミュニケーション活性化の推進

✓ 保育の質向上への取り組み加速

- 保育ノウハウの統一・質の追求、人財育成機関の創設

✓ 積極的な成長投資の継続

- 新規事業の推進(ベトナム、えんマッチ、発達支援事業等)

✓ 効率的な運営体制を再構築・推進

- 運営基準および新規開設基準の再整備、最適化の推進
- 事務業務の効率化などを実現させるBPR活動やIT活用の推進
- 戦略的なIT投資(施設へのIT活用加速、自治体請求管理システムの開発等)
- 本社の施設支援体制の大幅な見直し、強化

新規事業として児童発達支援事業をスタート ～本年6月に予定どおり開設～

- 潜在ニーズの高い未就学児向け発達支援事業への参入
- 保育園等との強固な連携をベースとした事業展開（大手保育園事業者では初）

インクルージョン社会の実現へ

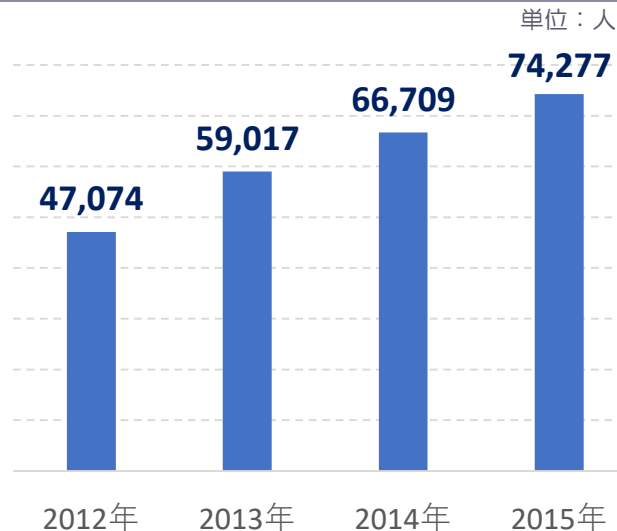
◆ 事業概要

- 開始日 2019年6月
- ブランド名 「グローバルキッズAct」

◆ 今後の展開

- 保育所/幼稚園と連携し、5年で30施設程度の開設を計画
- 保育所等への訪問事業などの展開も検討
 - ・ 1施設10～15程度の保育所(当社グループ外含む)を訪問事業で支援し、400～500施設のサポートを目指す
 - ・ 障碍児のほか、保育士、保護者に対する支援も実施

児童発達支援利用児童数の推移(1月平均)



◆ 発達支援事業とは

- 2012年に児童福祉法によって定められた、発達障碍を持つ未就学児を対象とした認可制の事業

※療育とは障碍のあるお子様が、社会的に自立できるように取り組む教育・治療のこと

◆ 発達支援事業の現状

- 全国約500万人の未就学児のうち、約33万人の子どもが障碍を持つといわれている
- そのうち、児童発達支援サービスを利用し療育(※)を受け入れている子どもは約10%程度と低水準

保育のシェアリングエコノミーモデルの推進（えんマッチ）

- 業界初となる保育のシェアリングモデル構築を意図
- 日本生命との業務提携により事業基盤の拡大を加速化

◆ “えんマッチ” 強化を目指し日本生命と業務提携（2019年3月）

- ✓ 保育事業者および共同利用企業的大幅かつ全国的な拡大
- ✓ 企業主導型保育所の認知度向上
- ✓ 企業主導型保育所における保育の質担保のための各種取組み

◆ 提携企業数、契約保育園数が拡大中

	提携企業数	提携企業 社員数	共同利用契約 保育園数
2018年 5月	80社	38万人	32園
・			
・			
2019年 8月	148社	63万人	150園

※ “えんマッチ”とは、育休中社員の早期の職場復帰のための保育園利用枠を確保したい企業に、企業主導型保育施設の企業枠を提供する保育版シェアリングエコノミーモデルです

ESGへの取組み

ESGへの取組み — 持続的成長を可能とする源泉

企業価値向上に向けてESG活動を推進 ～社会課題解決への取組み～

項目	重要なESG課題	取組みの例
環境 (E)	地球温暖化 自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 照明のLED化推進によりCO₂排出削減に貢献 ◆ 施設設備への国産木材の積極活用を通じ国内林業の活性化・森林保全に貢献 ◆ 内装にはホルムアルデヒドの放散が最も低いフォースター規格建材を使用
社会 (S)	女性社会進出 人財活用 地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 子育てしやすい社会の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所開設により、女性の社会進出に貢献 ・ 児童発達支援事業をスタート → インクルージョン社会の実現に貢献 ◆ 働きやすい環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 休暇制度の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 消滅有給積立制度・・・介護、病気に伴う休暇 ・ 有給休暇の計画付与 etc. ✓ 従業員向け婚活支援サービスを導入 etc. ◆ 日本生命との提携により、保育のシェアリングエコノミーモデル“えんマッチ”を強化
ガバナンス (G)	コーポレート・ガバナンス 内部統制 企業行動	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 独立社外取締役3名 ◆ 株式報酬制度導入 ◆ リスクマネジメント体制の構築 ◆ コンプライアンス研修(情報セキュリティ、反社、ハラスメント等)の実施

持続的成長へ



ご覧いただき
ありがとう
ございました！

◆ ホームページ

<http://www.gkids.jp/> 株式会社グローバルキッズCOMPANY公式サイト

<http://www.gkids.co.jp/> 株式会社グローバルキッズ公式サイト

<http://www.gk-recruit.jp/> 株式会社グローバルキッズ採用サイト

<https://www.facebook.com/Gkidsbook/> 公式フェイスブック

<https://www.instagram.com/globalkids/> 公式インスタグラム

https://www.instagram.com/global_kids/ 大好評マンガコンテンツ「グローバルキッズ！」

https://twitter.com/hoikushi_dairy 大好評マンガコンテンツ「グローバルキッズ！」

